

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572608479		
法人名	株式会社 大曲仙北介護支援事業所		
事業所名	グループホームほほえみの家		
所在地	秋田県大曲市戸地谷字川前209-2		
自己評価作成日	平成23年12月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田市東通三丁目9-31		
訪問調査日	平成23年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域資源を活かし、毎月外出行事を企画し(冬期は無し)観光地や馴染みの場所へ出掛け、地域とのつながりを持ちながら暮らしていけるよう支援している。季節を感じられる行事を工夫し行っている。日常生活の中での軽作業や活動を通して、利用者と職員が共同で行う事で共に暮らし支え合っているという雰囲気を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

買物できるお店が車で数分と近く、地域資源を活用した外出にも対応できる生活環境の良い立地条件にあります。ボランティアによる定期的な体操教室が開催されて利用者の身体機能の維持が図られ、利用者と近隣住民と一緒に役割を決めて避難訓練を実施する等、職員が利用者と一緒にできることを考えながら、理念に沿った支援が行われています。職員のアイデアや提案が随所に活かされ、運営に反映できるよう努力されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲げ、玄関、廊下、ホール等に掲示し、常に意識し共有できるようにしている。	事業所理念「感謝・研鑽・共優・共歩」の中に、「地域や家族との結びつきを重視する」と基本方針の一項目に掲げ、ケアに活かせるように会議の際に話し合いが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方へ声を掛け避難訓練や消火訓練に参加していただいている。玄関先に花やベンチなどを置き、家庭的な雰囲気作りを行い、散歩の際には気軽に挨拶を交わしている。納涼祭や敬老会など行事の際には、職員と利用者が共にチラシを配り案内している。	ボランティアによる定期的な体操教室の開催や演芸の訪問があり、また、隣家に声をかけてお茶にお誘いしたり、ホームの行事でも利用者が近隣住民と交流できるよう働きかけが行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通して「認知症なんでも相談所」の開設を周知し、相談対応の研修に参加して体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催し、入居者状況や活動状況、行事報告等を行い利用者や家族、地域代表、行政の方との意見交換を行いサービス向上に努めている。	会議ではホームの取り組みについて質疑応答が行われ、職員には会議当日に議事内容が報告されて、会議での意見が運営に活かせるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者がいるため、福祉事務所の担当者と連携し支援している。訪問時には利用者の状態報告を行い、迅速に対応できるよう協力関係を築いている。	「認知症なんでも相談所」の実績報告や諸届けの提出、また、運営上の相談等連携しながら利用者の生活を支援されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを常置しいつでも確認できるようにしている。日中は鍵をかけずチャイムで出入りを確認し、職員の見守りや声掛けで対応している。	全職員が理解できるように申し送りや実践中に説明し、拘束のないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政からの集団指導の際に、管理者と職員が共に出席し学ぶ機会を持ち、ミーティングの際に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している利用者があるため、関係者と連絡をとり支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの概要、対応等を書面と口頭で十分に説明し、理解と納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との電話や面会時に意向を確認している。家族からの連絡がわかるよう、要望や意向を業務日誌に記入し全員で確認を行い、サービス向上につなげている。	電話や面会時の他、自宅訪問の際にも話を聞き、毎月家族宛に送付する「ほほえみ通信」にも意見を寄せてほしい旨を掲載して、意見、要望の引き出しに努め、サービスの向上に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行うミーティング時に意見や提案を出し合える機会がある。管理者は月初めの法人での管理者会議に出席し、意見や提案ができる機会がある。	ミーティングや申し送りで意見を出し合い、職員のアイデアが運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社での懇親会、忘年会等を企画し参加できるようにしている。休み希望を聞き、毎月のシフトを作成している。就業規則により労働時間が決まっており、資格取得後は資格、役職手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の介護従事経験年数を考慮し、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業者連絡会、グループホーム協会のスタッフ研修に参加し交流する機会を持ち、ネットワーク作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に行う事前調査等で、本人の希望や相談を聴く機会を作り、対応できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、更に契約時に家族より直接、希望や要望を聴く機会を作り、相談できるように関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のなにげない会話の中から、本人の昔の生活、経験等を通して、共に一緒に暮らしているという意識を持ちながら学び、支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に要望や希望を伺い、一緒に考え取り組んでいけるよう努めている。毎月初めに家族宛てのお便りで本人の状態報告、行事報告、日常報告を行い、同じ時間を共有し共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族からの情報やアセスメントを通して、馴染みの関係が途切れない支援に努めている。ホームの外出行事にも取り入れている。	2週間に1度電話をくれる家族もあり、お盆、お正月を家族と一緒に過ごしたり、知人と出会うように地域の行事に出かける企画をする等、家族の協力を得ながら、その関係が途切れないよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個別の状況を把握し、行事やレクリエーション、日常のなにげない会話の中で関わり合いができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な場合には関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から思いや希望を聞き、意向の把握に努めている。困難な場合は短い会話や本人の表情等を見守り、寄り添う事で意向がくみ取れるよう努めている。	利用者の意思が伝えやすい環境づくりに努め、居室で、或いは台所で一緒に作業をしながら話を聞き、本人の思いが把握できるように対応されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の面談時の情報を基に生活歴を把握している。現在の生活や日常の会話の中から新たな情報を得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に各用紙に記録している。心身の様子や排泄の状況等を申し送りにて把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の会話の中で得た本人の思いを取り入れて計画を作成している。必要な関係者の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の生活状況から利用者の思いを理解し、毎月ケース検討会で職員と意見交換して利用者、家族の希望が反映された介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録に記入している。日々の申し送りやスタッフノートを活用し、職員間で情報を共有しながら見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して意見交換や情報収集を行っている。地域の広報等からの情報をもとに行事を企画し、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医について説明をし了解を得ている。個々の状態に応じて、希望に沿った医療機関が受診できるよう体制を整えている。	内科、歯科等希望する医療機関で受診されています。職員が通院介助にあたり、家族にも報告されて情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化について、受診時や状態報告時に相談している。的確なアドバイスをいただき支援を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、家族と話す機会を調整し、状態の把握に努めている。早期に退院できるよう医療機関との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の意見を職員間で話し合い、家族へ状態報告を行って変化に応じて検討を行っていきたい。	事業所では終末期のケア体制をとっておらず、今後の課題として取り組んでいくことを検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救命講習を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。地域住民、利用者も消火器を使用しての消火訓練を行っている。スプリンクラーと火災報知機を設置している。	利用者、近隣住民もそれぞれ役割を決めて日中、夜間を想定した避難訓練が実施されています。通報訓練も行われ、避難経路の確認もされています。	2ヶ月に1回自主訓練を実施することを検討していますが、訓練後の反省を踏まえて話し合い、具体的に取り組んでいかれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のペースに合わせた食事介助や手引き歩行介助を行っている。個々の思いに寄り添い、場面に応じた対応を行っている。	利用者が手伝ってくれたことに職員は感謝の言葉で気持ちを伝え、一人ひとりの人格を尊重した対応をされています。	トイレの仕切り、出入り口がカーテンになっています。利用者の目線に立ち、尊厳、プライバシーの確保に工夫されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	周囲の雰囲気や環境に配慮している。自己決定ができるような説明や、場面に応じた声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活ペースを大切にしている。意思の疎通が困難な方に対しては、表情や行動の見守りを行い希望に添えるよう支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	系列事業所(グループホーム)内に理容室が設置されているため、出掛けて散髪ができるようにしている。家族と外出し馴染みの理美容室に行き、パーマをかけている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力を活かしながら、食事前の準備、配膳、食後の後片付け等を分担し職員と一緒にしている。食事が楽しみなものになるよう、食事時の雰囲気も大切にしている。	利用者の希望を聞いて献立を考え、買物も一緒に出かけています。新米できりたんぼを作るところから始める等、職員と一緒に楽しみながらできることをされており、利用者の力が活かされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理の際はたくさんの食材を使用するよう工夫している。有資格者(栄養士)よりアドバイスをもらい、調理方法について学んだ。摂取量の確認を行い全員で把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持のため、毎食後口腔ケアを促し、必要に応じて介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人に合わせた声掛けや誘導を行っている。おむつ使用の方もいるが声掛けや様子を確認しながら、できる限りトイレで排泄ができるよう支援している。	リハパンや紙パッドを利用者の状況に合わせて使用し、身体機能に応じた歩行介助や誘導を行ってトイレで排泄できるように支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	たくさんの食材を使用し食事のメニューを工夫している。軽運動を取り入れ身体を動かす働きかけをしている。排泄が自立している方には、プライバシーに配慮し毎日本人への確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に沿える様努めている。健康状態を把握し、入浴を拒む方へは「薬を塗りましょう」等と声掛けを工夫している。	希望に応じて毎日でも入浴できるように支援されています。男性介助を嫌がる女性利用者には、同性による介助が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活ペースに合わせ、穏やかに過ごしていただけるよう努めている。夜間の安眠が得られるよう、日中は適度な活動を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からのお薬説明表で薬の働き、注意事項、相互作用、副作用を確認している。不明な点は電話連絡を行い、医療関係者の活用を図るなど、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や現在の状況を把握しながら、洗濯物干し、台所仕事、居室掃除、散歩、外気浴等を一緒に行っている。暮らしの中で役割が持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	散歩や買い物など、利用者の希望を確認しながら日常的に外出している。花見、なべっこ、紅葉と地域の中へ出掛けられるよう外出行事を企画している。	利用者も一緒に外出計画に参加して毎年恒例の外出行事が行われ、法人所有の車を使用して全員で出かけています。行き先によっては事前調査し、安心して楽しめるように配慮されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として家族の了解を得て、ホーム側での立て替え形式をとっている。利用者で手持ちのお金を利用したい方は、預かり金取り扱い保管規定により預からせていただくこともできるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談し状況や時間をみて、電話や手紙のやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には季節ごとの本人の作品や行事の写真、行事のお知らせを飾っており、生活感や季節感を取り入れている。備品、物品いずれも家庭的なものを使用し、居心地良く過ごせるよう工夫している。	職員の特技を活かして、毎月その時期に合わせた「今月の風景」が飾られ、居室の出入り口にも季節の飾りつけがされています。利用者がそれぞれの思いで過ごせるようにホールのソファを離して設置する等、随所に職員のアイデアと工夫がみられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	全室個室で一人になることができる。本人のペースで自由に過ごすことができ、気の合った利用者同士で過ごす共有空間としてホールがある。面会室も使用していない場合は開放している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品を持ち込み、使い慣れたものや好みの物を活かして居室を飾ったりできるようにしている。安心して過ごせるよう居室環境に配慮している。	居室ごとに作り付けられた棚は、利用者の安全に配慮した位置に取り付けられています。いつでも利用できるように置き畳も用意され、居心地よく過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室等各箇所に手すりを設置している。入浴時には浴槽、浴室に滑り止めマットを使用し、転倒防止に努め安全な環境作りに努めている。		